

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 藺田 珠実

## はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、平成 31 年 3 月 1 日から 3 月 25 日の間、学術交流協定を締結しているシーナカリンウィロート大学(タイ王国)へ交換留学生として留学しましたので報告致します。

## 1、大学内での生活

シーナカリンウィロート大学は、ナコンナヨックとバンコクにキャンパスをもつ国公立大学で、薬学部はナコンナヨックにあります。薬学部の生徒数は、ひと学年あたり 72 人ほどでした。薬学部以外にも、医学部、看護、工学部などがあります。薬学部の中で 2 つのコースに分かれており、1 年次生からそれぞれ異なる勉強をします。

1 つは、Pharmaceutical science

もう 1 つは、Pharmaceutical care

タイの大学では、5 月から 7 月の 3 ヶ月間が長期休みで、8 月から 4 月はずっと学校があるそうです。そのため新学期は 8 月から始まります。大学の中は非常に広くて、バイクや自転車、スクールバスを利用しなければ移動ができません。大学内に学生寮が完備されており、私はそこで生活しました。ご飯はワンプレート式が多く、野菜はあまりなく、炭水化物が多かったです。また、Spicy な食べ物が多くありました。

トイレには、トイレットペーパーが付いていないことが多く、使ったトイレットペーパーは流さずにゴミ箱に捨てなければなりません。

コンビニでは 5~6 個以上買わなければレジ袋はもらえませんでした。

日本では当たり前だと思っていたことも、別の国へ行くと当たり前ではなく、日々の生活で感謝すべきことがたくさんあると感じました。

平日は、朝は早くて 8 時半から授業が始まり、遅くても 16 時半には終わりました。

病院見学、薬局見学、在宅見学などの課外授業に加えて、現地の大学生達と、ミニプロジェクト(錠剤作り、リップスティック作り) 植物の授業、実験などを行いました。

## 2. 病院見学

大学内にある病院を見学させていただきました。

その病院の規模は最も大きく、1 つの科あたり、朝の 9 時半の時点で、40 人以上患者さんが並んでおり、みてもうまで 2 時間ほどかかるそうです。

保険料を払っているため、入院や治療費、薬代などは政府が負担してくれるので、貧困層の患者さんでも治療が受けられる仕組みになっています。ただし、入院病棟の中にエアコ

ンなどではなく大部屋です。エアコンがある部屋や個室の部屋を希望する場合は、自分でお金を払わなければいけないようです。

治療法もスタンダードな治療法を選べば無料で受けることができます。

日本の保険制度と似ている部分があると思いました。

また、病院内に薬剤部は三箇所あります。小児用、外来用、院内処方用。

小児だと薬の容量が違ってくるのでそういったミスをなくすために小児用だけの薬剤部があるそうです。

CKDの病棟を見学させて頂いた際、医者に診てもらう前に、テクニシャンが患者さんと話をして状態を把握します。その後、患者さんは自分自身で体重や身長を測りその後、医者に診てもらいます。

また、栄養士や薬剤師が何名かの患者さんの前で栄養指導や服薬指導をしていました。

薬剤師は服用してはいけない薬について、名前だと患者さんが覚えることができないので、写真を見せていました。腎臓病の患者さんの多くはタイハーブを利用しているようです。

医者、薬剤師、栄養士、看護師が、カーテンで仕切られてはいましたが、同じ部屋にいて医療従事者が連携をとりやすいような仕組みだと感じました。

タイの薬剤師の70パーセントが病院薬剤師だそうです。



### 3. 薬局見学

大学の中にある薬局を見学させていただきました。そこでは基本的に大学の先生が薬剤師として常駐しているそうです。棚ごとに異なる種類の薬が配置されており、タイハーブも多く扱っていました。

また、薬局内に体重計が置いてあり、子供の場合は体重を測ってから薬を渡している場面がありました。

薬局内での業務とは別に、薬局薬剤師が月に1~2回ほど在宅へ行くこともあるそうです。そして、病院に行くほどでもない症状の場合、患者さんはまず薬剤師に相談してから病院に行くそうで、何かあればすぐ病院に行く日本とは違う部分だと感じました。



### 4. 在宅見学

2日間、大学の薬剤師の先生が在宅に行くそうで、私も同行させていただきました。

貧しくて病院に行くことが出来ない患者さんの元へ薬剤師、薬学部の6年生が実際に行って血圧を測ったり話を聞いたり(問診)していました。中には、薬をちゃんと飲むと約束したのにも関わらず毎食薬を飲めていないため彼の発言に信頼性が持てず苦戦する場面もありました。時々、患者さんが必要とするものを無料で提供するそうで、保険制度の1つです。右側の写真ではブランケットを患者さんに渡しているところです



## 5. 授業について

現地の 2 年生と一緒に植物の授業を受けました。先生はタイ語で生徒たちに説明をするのですが、その内容を生徒たちが英語で私に説明してくれました。タイではタイハーブを使う患者さんが多いため植物の授業はとても大切なんだそうです。植物の部位の名前やそれと関係する疾患名など難しい英単語であってもほとんどの学生が英語で説明、理解できていました。また別の日には、3 年生と一緒に実験を行いました。何種類かの物質をある一定の割合で組み合わせてゼリー剤を作ったり、水分や油分の比率調節をして乳濁剤を作ったりしました。座学だけでなく実験も週に 3 日ほどあるそうです。



## 6. ミニプロジェクト

2 人の大学院生とともにテオフィリンの錠剤を作り、溶出試験を行いました。その際に吸光度の測り方や HPLC のやり方も教えてもらいました。ただテオフィリンの錠剤を作るだけでなく、結合剤や加える水分の量を変えて、様々な条件の錠剤をつくり、また硬さや重さも範囲内に収まるよう打錠機の調節も行ないました。3 年生後期の授業で製剤の学習をしたため、今回のタイでの錠剤づくりはとて理解しやすく興味深いものでした。また別の日には、リップスティックを作りました。リップスティックも使用するのに適した硬さがありその硬さになるように材料の比率を変えて検討しなければなりません。自分の好みの色になるように染色して素敵なリップスティックが完成しました。クリーム剤も作る予定でしたが、分量が合わず失敗に終わりました。



## 7、最後に

現地で私たちの身の回りのお世話をしてくれたのは28歳の大学院生でした。彼は、私たちを毎週どこか遊びに連れて行って来て、時にはご飯をご馳走してくれました。彼の貴重な時間、お金を私たちのために使ってくれました。また、学生寮のハウスキーパーの方やスクールバスの運転手、現地の大学生など様々な人が私たちに優しくしてくれました。日本では当たり前だと思っていたことが他の国では当たり前ではなく感謝すべきことなんだということも学びました。たくさんの人の優しさに触れ、新たな発見ができ、考え方が豊かになりました。

このような貴重な体験をさせていただいた国際交流基金助成事業に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。